

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■149■

移住で熱い群馬県。2024年度には1500人超の移住があったそうだ。

親しい群馬移住者に、生活スタイルや群馬を選んだ理由を聞いてみた。こんな時、自分のすずらしい性格と、本欄のネタにしたいという下心が推進力になる。

やはり、群馬と首都圏の2拠点生活の例が多い。アクセスの良さから、高崎や前橋、安中榛名に居を移しつつ、職場は首都圏、という感じだ。

群馬に仕事がある例も。倉淵を拠点に活躍する陶芸家、森のめぐみさん

移住も往来も増やす

魅力あるヒト集める

んは30代半ばに群馬に帰郷し、師匠の佐藤桂さんの指導のもと、20年前に念願の穴窯を築いた。倉淵には、窯に適した斜面

が多くあるそう。馬との生活も夢だったと目を輝かせる。

共通するのが、群馬の豊かな自然と社会的、人間的な生活とのバランスの良さが決め手になったという点だ。

朝夕に真っ赤に染まる山々や、暑い日に涼をもたらす川。四季折々に草

花が咲き、街なかには水の流れがある。自然災害も少ない。そして、人間味にあふれる上州人がいる。上毛かるたが育んだ郷土愛を持ち合わせた魅力的なヒトとの出会い。そんな生活を求めてヒト

がやってくる。食もまた大きな誘因

居も比較的安価だ。移住に限らず、内外からの往来が増えることは、県内の消費や投資に前向きな効果をもたらす。これをもっと増やすにはどうすればいいの

か。群馬でもう一つ安いのが教育費だ。公立校の多

だ。都会で大金をかけてうまいのは当たり前。群馬にはお手頃価格の逸品がたくさんある。実は、最新の統計(24年消費者物価地域差指数・総務省)で、群馬県は物価が日本

一安い県になった。特に、食料品や外食が安い。豊富で新鮮な農作物の産地である強みだ。土地や住

の表れかもしれない。また、ヒントになるのが「社会人アスリート」の取り組みだ。元体操選手の池谷直樹さんは、その活動の軸足を群馬に据えつつある。特に、プロがない種目の選手が活動を継続するには経済的基盤が欠かせないが、これを一企業の丸抱えにせず、地域全体で支える「地域丸抱え」にする。多様なスポーツの振興や選手育成が、魅力あるヒトの定着に繋がり、往来が一段と増えることに期待したい。

宮 将史(みや・まさひさ)

1974年生まれ。神奈川県出身。一橋大経済学修士。

2000年日本銀行入行、政策委員会室国会渉外課長など

を経て24年7月から現職

